

令和5年度指定管理者評価シート

1 管理運営の状況等

(1)施設名	さいたま市大崎むつみの里
(2)施設概要	<p>①所在地 緑区大崎37-1</p> <p>②施設の設置目的 障害者及び障害児がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障害福祉サービスに係る給付その他の支援を行い、障害者及び障害児の福祉の増進を図る。</p> <p>③施設の概要 事業指定年月 【第1事業所】平成19年4月 【第2事業所】平成18年10月 敷地面積 5,272.00㎡ 延床面積 4,355.96㎡ 構 造 第1事業所:鉄筋コンクリート造 4階建 鉄筋コンクリート造 平屋建 第2事業所:鉄筋コンクリート造 平屋建</p> <p>事業内容 【第1事業所】生活介護事業(定員70人) 自立訓練(機能訓練)事業(定員10人) 自立訓練(生活訓練)事業(定員10人) 就労移行支援事業(定員15人) 就労継続支援事業B型(定員55人) 相談支援事業(特定相談支援・障害児相談支援) 【第2事業所】児童発達支援事業(定員30人) 保育所等訪問支援事業 相談支援事業(特定相談支援・障害児相談支援)</p>
(3)指定管理者	社会福祉法人 さいたま市社会福祉事業団
(4)指定期間、指定管理料	<p>①指定期間 令和2年4月1日～令和7年3月31日</p> <p>②指定管理料(直近3か年) 令和3年度226,268千円、令和4年度228,578千円、令和5年度228,578千円</p>
(5)施設の管理運営の内容	<p>①運営業務の状況(利用状況含む)</p> <p>◇利用状況</p> <p><生活介護事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 11,198人(前年度11,464人) ・稼働率65.6%(前年度67.1%) <p><自立訓練(機能)事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数1,316人(前年度1,254人) ・稼働率54.2%(前年度51.6%) <p><自立訓練(生活)事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数663人(前年度980人) ・稼働率27.2%(前年度40.2%) <p><就労移行支援事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数175人(前年度117人) ・稼働率4.8%(前年度3.2%) <p><就労継続支援B型事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数8,223人(前年度8,973人) ・稼働率61.3%(前年度66.9%) <p><児童発達支援事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 5,403人(前年度5,104人) ・稼働率76.0%(前年度72.4%) <p><保育所等訪問支援事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約者数 23人(前年度31人) <p><相談支援事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 273人(前年度274人)

(5)施設の管理運営の内容	<p>◇業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練(年2回)・水防法による避難確保計画に定められた避難訓練 ・むつみ祭・健康診断・歯科検診・市街地外出活動等 <p>②維持管理業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物設備保守管理業務(日常管理業務、空調排気設備、消防設備点検、昇降機設備点検、その他の設備、防火対象物定期点検) ・清掃業務(床・カーペット清掃、硝子清掃、害虫駆除、樹木消毒等) ・自家用電気工作物保安管理業務(需要設備点検、発電設備点検、高圧盤清掃) ・施設警備業務 ・浴槽水質検査業務(レジオネラ菌検査)
(6)収支状況	<p>①収入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理料収入 226,268千円 (前年度 228,578千円) ・障害福祉サービス等事業収入 288,282千円 (前年度 291,642千円) ・就労支援事業収入 5,188千円 (前年度 4,169千円) ・その他 9,308千円 (前年度 55,521千円) ・前期末支払資金残高取崩 3,364千円 ・人件費積立資産取崩 23,840千円 ・修繕積立資産取崩 3,000千円 <p>②支出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費 408,196千円 (前年度 416,165千円) ・事務費 11,722千円 (前年度 11,521千円) ・施設管理費 77,056千円 (前年度 78,243千円) ・事業費 16,063千円 (前年度 15,096千円) ・繰入金支出 34,241千円 (前年度 34,241千円) ・就労支援事業支出 5,188千円 (前年度 4,169千円) ・その他の支出 4,829千円 (前年度 6,487千円)
(7)利用者アンケート等による 市民からの意見・要望等への対応	<p>苦情解決制度に加え、「みなさまの声」による投書の受付や年1回実施する「利用者アンケート」にて利用者からの意見を伺う取組を行った。</p> <p>・生活介護事業:令和5年度は、利用者向けアンケート・家族向けアンケートを合わせて72回答をいただき、すべての意見に対し回答を掲示した。利用者ご家族から活動内容のバリエーションを増やしてもらいたいこと、階段の修繕をお願いしたいとご意見があり、活動内容の見直しと階段の修繕を職員で実施した。</p> <p>・自立訓練事業、機能訓練事業では、送迎サービスの利用者ニーズに応えられるよう車両の変更や運用体制を整備し、年間延べ672件、週の平均で12.9件の送迎を実施した。生活訓練事業では、活動アンケートを実施し、社会体験活動を多く実施した。なかでも生活訓練事業を終了した利用者とともに地域清掃活動を月1回実施し、また卒業した利用者との交流の中で、進路について前向きに考えられ、希望の就労施設に進めた。</p> <p>・就労継続支援B型事業:工賃向上のご希望があり、新規作業の開拓に努め、2社と契約を結ぶことができた。工賃は令和4年度よりも1112円向上した。</p> <p>・児童発達支援事業:施設の老朽化に伴い、水回りも含めた改修が必要とのご意見をいただいた。特に児童トイレを明るく子ども達が利用したくなるようにとの要望が出ていたため、壁面等楽しく利用できるように工夫をした。年度末にさいたま市で修繕を行った。</p>
(8)その他	

2 提案内容の達成状況

提案内容	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・サービス向上のための具体的提案 ・利用率向上のための具体的提案 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業:障害者生活支援センターや地域の特別支援学校等関係機関に出向き、広報活動を行った。 ・入浴枠の見直しを図り、次年度からは今まで実施していなかった時間枠も実施することとなった。 ・特別支援学校や地域包括支援センターへの広報活動を行った。 ・自立訓練事業:むつみの里内の他事業所に専門職連携として理学療法士がおもむき利用者を評価する取組を実施した。特別支援学校の学校公開日に見学を実施した。また、特別支援学校へは定期的に連絡、訪問を行い広報活動を行った。 ・児童発達支援事業:区の親子教室や、児童センターの発達相談等で保護者から相談を受けると共に児童発達支援センターについて知ってもらう機会を設けた。
経費縮減をするために提案	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内清掃や修繕等、可能な限り職員自らの手でメンテナンスを実施した。 ・複合棟階段のカーペット修繕について、業者による見積もりが230万円であったものを15万円の経費で職員で実施した。
職員の教育・研修の実施など、資質向上の提案	<ul style="list-style-type: none"> ・むつみの里全体として、強度行動障害について伝達研修と共にグループワークを行ったり等、内部研修の充実を図り資質向上に努めた。 ・生活介護事業:他法人派遣研修を実施することで他事業所の生活介護事業を参考にするなどし、内部伝達講習を行った。 ・人権擁護虐待防止の取り組みとして個人ワークシートを用いて支援の振り返りを行い、職員間で共有した。さいたま市次世代育成プロジェクトに職員が定期的に参加し、地域の他法人事業所と情報共有を図ったり、地域の課題について話し合う時間を持った。 ・自立訓練:新型コロナウイルス感染症の扱いが5類になったことを受け、参集による研修の機会を再開した。各事業内での伝達研修の実施に務めた。 ・就労継続B:法人内の就労支援事業所への研修を実施し、就労の評価シートを作成した。 ・児童発達支援事業:外部研修や内部研修を通して療育について学ぶ機会を持つと共に、他施設との交流研修などに参加し広い視野が持てるよう学んだ。伝達研修を行い周知した。

3 評価

(1)指定管理者による評価

<p>むつみの里全体としては、地域との交流を目的としたむつみ祭を11月に実施した。地域の方々にもお越しいただき、久しぶりににぎやかな行事となった。次年度に向けて地域住民の方々、関係機関との連携を更に図っていきたい。また、各事業を中心に、多機能型を活かして事業を越えた送迎方法や新規利用者獲得への検討を続けた(継続中)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業:各地域の関係機関と連携をしながら情報を得て、生活介護事業利用者や特別支援学校卒業生のニーズの深堀を行った。次年度から生産活動(さをり織り・七宝焼き・リサイクル活動・菌床作業)に力を入れるために試行を行うなど、利用者ニーズに合わせたサービスを実施した。 ・自立訓練事業:送迎サービスの運用体制を見直し、送迎件数を増やし市民の利用促進を図った。 ・就労継続支援B型事業:工賃向上の為、企業等へ営業を行った結果2社と契約し工賃向上に繋がった。 ・児童発達支援事業:次世代の育成につながる積極的に実習生の受け入れを行った。 ・むつみ祭や運動会など園全体の行事を行い、ご家族と参加できる機会を設けた。

(2)さいたま市の評価(評価担当課:福祉局障害福祉部障害政策課)

総合評価 (B) ※A~D

施設の各事業において、サービス向上のための具体的な提案や、利用率向上に向けた取組み、職員研修を実施している。特に、生活介護事業での入浴方法の見直しや、自立訓練事業での送迎車両の変更や運用体制の整備など、利用者の満足度向上に向けた新しい取組みも行われていた。施設の規模がかなり大きいため、一体的なイベントを行うことが難しいものの、11月に「むつみ祭」するなど、利用者やその家族、職員、地域の方々との交流の機会も作っている。

以上のことを踏まえ、総合評価を「B」とした。

(3)来年度の管理運営に対する指導事項等

来年度以降も適正な管理運営を継続するよう指導していく。また、利用者の満足度向上にむけて、指定管理者の取組みを見守るだけでなく、市として関与できる部分については連携していきたい。